



ごあいさつ

秋空が碧くつんでて雲も横に流れ、変化する気温を感じての日々、休日らしさが少しずつもどりに行楽地やイベントの参加人数制限も緩和されましたが、コロナ以前のようににぎわいには遠く、感染拡大を警戒しながら体調が悪い時直近の感染状況によっては、計画を取りやめる勇気も持って過ごしたいものです。

コロナ禍の中で家族が、健康に暮らす『普通が一番』と『普通』への、尽くせぬ思いをずっと感じてきました。

ルームは、ベビーが5・7月に誕生、晩秋にもう一人誕生予定、三人が健やかにご両親・姉妹・社会の無償の愛情で、元気に育つことを願い、「生まれきてくれてありがとう」と、お目にかかるたびに語りかけています。

『普通』の価値観はそれぞれに違って食べ物にあっては、あったかいご飯は四季を問わずみんな大好き。ごちそうが苦手でも、好き嫌いがあっても、好きなものがひとつあればそれでいい、食べて褒められることで自信の笑顔が、次につながると信じて励ましています。私が食べたいものは、熱いご飯にナスとキュウリの浅漬けだけで十分です。

みなさんはいかがですか。



コロナの日常を健康に幸せに生きるキーワードは『つながり』心の生活必需品

コロナ禍は社会・経済・人間関係・働き方も大きく変化し、想定外・非日常の事態が起きて、不安が過度になり身動きが取れなくなり、つながりも少なく考える力が発揮しにくい傾向になります。そこでキーワードの『つながり』は、意識して会話を交わすことで、お互いを励まし、手助けし、感謝する。孤立しそうな人を支援する。それを救ったのは、インターネットの発達です。私たちは最低限の地位財の確保があれば、幸せを感じる事が出来る。そして、人と人とのつながりが安心感をもたらし、危機においても考える力や気力を湧き立たせてくれます。ルームは、適切な社会的距離を保ち、つながる方法を見出し、創意工夫を発揮して、心の生活必需品である『つながり』を更に大切にしていきたいと思います。

川崎市の子どもの現状・・・

2019年8月厚労省の発表では・昨年1年間に虐待で死亡した子どもの数65人内、0歳児28人

川崎市の児童虐待相談・通告4,506件過去最多を更新内容別では、心理的虐待が2,503件・育児放棄が1,103件他、年齢別では「0～3歳未満」が1,300件と最も多く、「小学生」の1,255件、「3歳～就学前」の1,031件を合わせると、小学生以下が8割を占める。虐待をしたのは「実母」が2,574件全体の半数を以上で、区別では「川崎区」1,031件と最多、前年度比が23.5%大幅増「宮前区」700件、「高津区」670件と続いた。※2020年2～4月は大幅に減少コロナ禍による外出自粛で知人との交流も減り虐待が潜在化し、親から「当たられる・強く叱る」等コロナ禍に起因する相談が寄せられているそうです。

11月は、虐待防止推進月間です。本来、子どもは安心と安全が保障されることによって、保護者や養育者との基本的信頼に基づいた他者への思いやりと、自分を大切にできる心が育ちます。ところが虐待されると、家庭が不安、恐怖、緊張を強いられる場となり、基本的な信頼関係が身につかないため、心の自由が奪われ自信が育たないのです。このため、大人になっても情緒が不安定となりやすく、幼児期初期から関わる中で思うことは、家庭や学校で体罰や叱責を受けることを、予防出来た子どもは、情緒的に安定した大人になっていくことは確かです。それは、障害の有無によらず、例外はないはありません。

病気にからさせないコツは・・・



10月は秋雨前線の影響で、すっきり晴れる日が少なく、3日ごろからぐづつき、薄日はさすものの、秋空の恵みは少ないようです。雨さえ降らなければ、子どもの遊びたい気持ちを尊重し、お出かけしたり室内でごっこ遊びを積み重ねていきます。

さて、「病気にからせないコツ」古典的な睡眠・食事・運動の他に最近4番目の新たな項目が、必要になったのではと感じます。それは『情報制限』つまり親も子ども寝る直前までゲームをしていると、興奮して睡眠の質が悪くなり、心が休まらないのです。親が別々のスマホを見ていて、子どもはゲームをしている。会話もしない親子が普通になっている光景を目にします。時代の変化と言ってしまうまでもありますが・・・・・・